

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H03961

研究課題名(和文)研究成果と実践知の保健政策移転モデルの構築と活用推進プラットフォームの開発

研究課題名(英文) Construction of health policy transfer model of research-results and practical knowledge and development of utilization promotion platform

研究代表者

岡本 玲子 (OKAMOTO, Reiko)

大阪大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：60269850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：全国の保健師を対象とした質問紙調査より、日本の保健分野における政策移転(事業実装、先進優良事例の横展開)の実態と課題を明確にした。次に、その結果と先行研究の知見に基づいて、先進優良事例をエビデンスとして、その適用可能性検討し、事業の採用/導入に至る事業実装の展開モデル7段階を構築した。さらに、その展開モデルに沿ってオンラインで学ぶナラティブベースのシミュレーションプログラム「エビデンスに基づく事業実装の能力開発トレーニング3回コース」、および評価指標として信頼性・妥当性を確保した事業実装点検シート5分類31項目を開発し、それらの活用を推進するプラットフォームとなるWEBサイトを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

行財政改革の中、新規事業の予算化や拡大が困難であり、限られた条件下でいかに効果的・効率的かつ包括的に政策を展開するかが問われているという課題に対し、本研究が開発した「事業実装の展開モデル」は、日本の文脈に応じてエビデンスに基づき効果的・効率的に事業を展開するための指針となる。さらに、経験年数に関わらず調査研究能力や研究成果活用力が低いという保健師の課題に対し、本研究が開発したプログラム「エビデンスに基づく事業実装の能力開発トレーニングコース」と、「事業実装点検シート」、およびそれらの活用を推進するプラットフォームとなるWEBサイトは、現場の事業実装の能力開発を推進するために活用できる。

研究成果の概要(英文)：From a Nationwide survey of public health nurses, we clarified the actual conditions and issues of policy transfer (program implementation, best practice/policy transfer) in the health sector in Japan. Next, based on the results of the survey and the findings of previous studies, we examined the applicability of the advanced best practices as evidence, and developed a seven-step program implementation model that leads to the adoption/introduction of the program. In addition, we developed the Capacity Development Training Course for Evidence-based Program Implementation, an online narrative-based simulation program that follows the development model, as well as the following evaluation indicators we developed the Implementation Degree Assessment Sheet for Health Program in Japan with 31 items in 5 categories, ensuring reliability and validity, and constructed a website that serves as a platform to promote the use of these items.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：実装科学 保健師 事業実装力 政策移転 先進優良事例の横展開 Evidence Based Practice シミュレーションプログラム開発 尺度開発

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 自然災害や新興の感染症の勃発および非感染性疾患等の増加に伴い公衆衛生行政が担う役割が増大・高度化している。しかし行財政改革の中、新規事業の予算化や拡大が困難であり、限られた条件下でいかに効果的・効率的かつ包括的に政策を展開するかが問われている。
- (2) 行政として「正しいことを正しく行う」には、エビデンスに基づく保健医療 (Gray 2008) の展開が必須であるが、研究成果の政策への活用は十分ではなく (武村 2017)、具体的な示唆を与える研究も少ない (松浦 2010) ことが課題となっている。
- (3) 公衆衛生分野の政策移転研究は少なく、日本の文化・慣習や地域の特性、自治体の実情など日本の文脈に応じた効果的な方法論の開発が急務である。これには近年発展を遂げている学問領域の普及と実装科学 (D&I) の知見を活用できる可能性がある。
- (4) 公衆衛生の第一線で活動する保健師の力量を例に挙げると、経験年数に関わらず調査研究能力や研究成果活用力が低いという課題がある (岡本ら 2017)。これは、エビデンスに基づく活動展開に必要な力量形成の方法と仕組みを早急に構築する必要性を示唆している。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域の人々の健康増進および公衆衛生の向上に資する自治体の活動が、研究成果や実践知をエビデンスとして、効果的・効率的、かつ包括的に展開されるよう、政策移転モデルを構築し、それを普及する活用推進プラットフォームを開発することである。政策移転 Policy Transfer とは、現在や過去に形成された政策や制度、行政手続き、考え方に関する知識が、別の政治下の発展に活用される過程である (Dolowitz, Marsh 2000) が、本研究においては、日本の保健分野における「事業実装 Program Implementation」の範囲を扱い、その中でも「先進優良事例の横展開 Best Practice/Policy Transfer」に焦点をあてることとした。

- A) 実態と課題の明確化：日本の保健分野における事業実装、先進優良事例の横展開が、現場でどのように行われているのか、その実態と課題を全国調査により明確にして、求められるモデルや力量形成の方向性を明確にする。
- B) 事業実装の展開モデル：先進優良事例をエビデンスとして、その適用可能性検討し、事業の採用/導入に至る事業実装の展開モデルを構築する。
- C) 活用推進プラットフォーム：事業実装の展開モデルを学習し、その力量、事業実装力を向上するためのプログラムと教材、および 評価指標を開発し、活用推進のプラットフォームとなる WEB サイトを構築する。

## 3. 研究の方法

- (1) 実態・課題明確化のための全国調査 (目的 A)：全国の都道府県・保健所設置市の本庁・保健所に勤める保健師を対象とした郵送自記式質問紙調査を実施した。
- (2) 事業実装力の評価指標の開発 (目的 C)：D&I 研究で最も活用されている (Mazzucca et al., 2018) 実装研究統合枠組み (CFIR, Damschroder et al., 2009) を日本の保健事業の実装を点検できるように研究班で協議・カスタマイズし事業実装点検シート 5 分類 31 項目を作成し、調査で信頼性・妥当性を検証した。
- (3) 事業実装の展開モデルの構築 (目的 B)：実装科学の枠組み 4 段階 (Chambers et al, 2020) と政策移転の学習導出 10 段階 (Rose, 2005) および CFIR をもとに研究班で協議し、7 段階の事業実装展開モデルを考案した。
- (4) 事業実装力向上プログラムの開発 (目的 C)：7 段階の事業実装展開モデルに沿って、オンラインで学ぶナラティブベースのシミュレーションプログラム「エビデンスに基づく事業実装の能力開発トレーニングコース Capacity Development Training Course for Evidence-based Program Implementation on Public Health Nursing and Community Health : EPI (えび)トレ」3 回コースを開発した。
- (5) プラットフォームとなる WEB サイトの構築 (目的 C)：事業実装の展開モデル、えびトレ、事業実装点検シートが活用できる WEB サイトを構築した。

## 4. 研究成果

- (1) 実態・課題明確化のための全国調査 (目的 A)：協力施設 185 (55.4%)、回収 709 (73.4%)、有効回答 702 (72.7%) であった。
  - ・ 事業実装における保健師の重要度の認識は高いものの、それに比し実施度は低く、キャリアレベル別の特徴に応じた能力開発や体制整備の必要性が示唆された。
  - ・ 先進優良事例の横展開実施経験は半数に満たないものの、今後の実施意志は高く、関連要因より職場単位での体制整備が重要であることが明らかになった。
  - ・ 事業実装力は新任期・6 年以上・役職有の順に高値を示した。事業実装力の向上には全群において省察的実践力・専門性発展力・研究成果活用力が影響することが確認された。主に上記のような実態と課題が明らかになった。

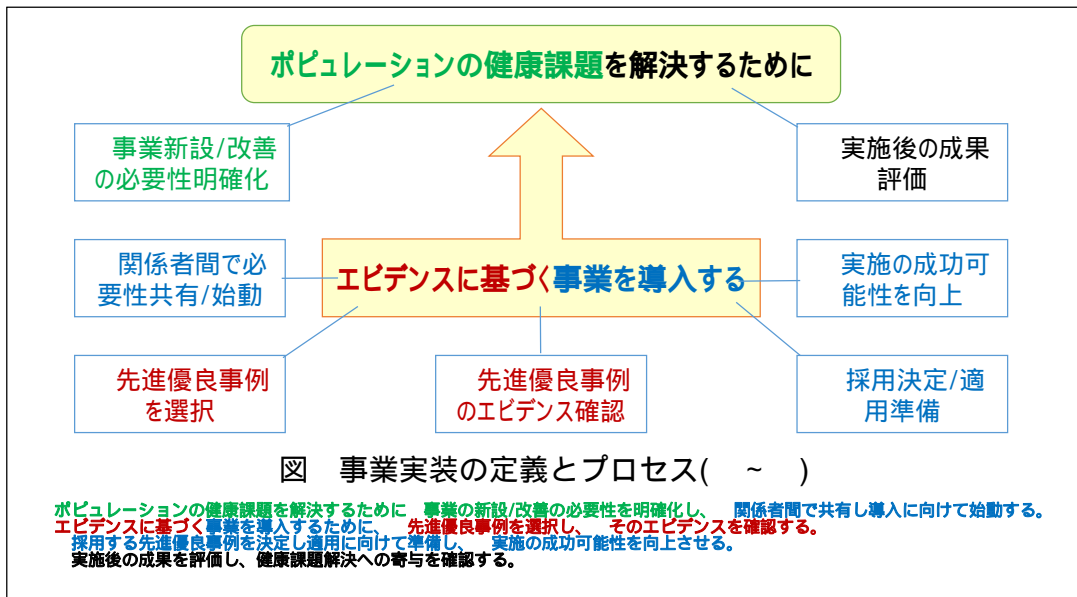
(2) 事業実装力の評価指標の開発 (目的 C) : 下記の事業実装点検シートが開発された。

問 各項目は新たな事業を採用/導入する際の行動を示しています (用語の定義は以下をご覧ください)。  
業務において、あなたは、このように行動していますか。回答欄の「常にそうしている : 5」から「全くそうしていない : 0」のいずれかに○をつけてください。

【定義】事業: 事業、活動など、あなたやあなたの所属部署のメンバーが主催して、対象者 (個人・家族、集団・組織・地区などのコミュニティ) に行っている働きかけのこと。		私がこのように行動している程度	5	4	3	2	1	0	
■すべて「私/自分」を主語にしてください。									
1	I 事業 特性	事業の出处確認:	その事業がどのように開発されたものかを知る	5	4	3	2	1	0
2		エビデンス確認:	その事業がどの程度エビデンスの検証されたものかを知る	5	4	3	2	1	0
3		利点確認:	既存の事業と比較して、利点・欠点を明確にする	5	4	3	2	1	0
4		適用性確認:	現場に適用するためにどこをどう変更/調整すればよいかを明確にする	5	4	3	2	1	0
5		試用確認:	全面的に導入する前に試行的な実施段階を経る	5	4	3	2	1	0
6		諸条件確認:	導入に至る諸条件 (手順、範囲、期間など) を明確にする	5	4	3	2	1	0
7		媒体品質管理:	事業の品質を保証する教材・資料を揃える	5	4	3	2	1	0
8		経費確認:	導入に掛かる経費を費目ごとに明確にする	5	4	3	2	1	0
9	II 外的 要因	課題と事業必要性確認:	健康課題の動向に応じて新たな事業を導入する必要性を明確にする	5	4	3	2	1	0
10		共同可能性確認:	他地域/他機関での実施状況を把握し情報や意見の交換をする	5	4	3	2	1	0
11		先進優良事例把握:	他地域/他機関での先進優良事例とその実施状況を把握する	5	4	3	2	1	0
12		外的インセンティブ把握:	国や都道府県の政策の動向をタイムリーに把握し活かす	5	4	3	2	1	0
13	III 内的 要因	場・設備の調達・管理:	その事業を実施できる空間や設備を確認し準備する	5	4	3	2	1	0
14		合意手段整備:	導入を協議する会議と、メール・電話等のコミュニケーション手段を持つ	5	4	3	2	1	0
15		組織文化考慮:	組織文化 (規範・価値・特性など) の影響を考慮する	5	4	3	2	1	0
16		新規受入風土醸成:	組織が新しい事業の導入の優先度・重要性を認識し受容する	5	4	3	2	1	0
17		目標設定・公表:	組織として事業によって到達する目標を設定し公表する	5	4	3	2	1	0
18		上位目標確認:	組織の上位目標 (総合計画・基本指針など) との整合性を確認する	5	4	3	2	1	0
19		組織内学習風土整備:	組織として事業に必要な知識と技術を学習する風土と体制を整る	5	4	3	2	1	0
20	IV 個人 特性	リーダーシップ発揮:	リーダーとして実施メンバーに事業の詳細・役割を説明し支持する	5	4	3	2	1	0
21		知識と情報へのアクセス:	事業実施メンバーの力量形成環境 (研修の機会や教材提供など) を整える	5	4	3	2	1	0
22		知識・信念保有:	自分が事業を遂行する知識と技術、信念を持つ	5	4	3	2	1	0
23		自己効力感保持:	自分が事業実施への自信/自己効力感を持つ	5	4	3	2	1	0
24		段階的展開スキル体得:	事業の各段階を自分で展開できる準備をする (知識/説得/決定/実施/確認)	5	4	3	2	1	0
25		職業アイデンティティ保持:	自分がこの職場で力量を発揮するに誇りを持つ	5	4	3	2	1	0
26	V プロ セス	計画立案:	組織として綿密に実行可能な実施計画を立てる	5	4	3	2	1	0
27		適材適所配置:	全体統括/実行指揮/実行班に適切な人材を配置する	5	4	3	2	1	0
28		外部との連携・協働:	外部の関係者・関係機関と必要に応じて連携・協働する	5	4	3	2	1	0
29		事業参加者募集:	複数の広報媒体・手段を用いて事業への参加者を募集する	5	4	3	2	1	0
30		実施・展開:	計画に基づいて事業を実施・展開する	5	4	3	2	1	0
31		振り返りと評価:	定期的の実施経過を振り返り、評価、改善する	5	4	3	2	1	0

1. Reiko Otamoto, Hisako Kagiyama, Keiko Kozaki, Miho Tamaki, Yoshihiko Yamamoto, Maria Fujikura, Aiyumi Osumi, Kazuko Sasaki, Kazuo Hirokane, Fusami Nagano and Shinji Takemura: Implementation Degree Assessment Sheet for Health Program in Japan by Customizing CFIR: Development and Validation, Implementation Science Communications, 3:20, 1-12, 2022

(3) 事業実装の展開モデルの構築 (目的 B) : 下記の事業実装展開モデルが考案された。



(4) 事業実装力向上プログラムの開発 (目的 C ): 下記のえびトレ 3 回コースが開発された。

2022 年度第 81 回  
公衆衛生学会 (山梨)  
示説より

公衆衛生看護における事業実装力向上プログラムの開発  
—オンライン基礎編の検討— 岡本玲子, 宮本圭子, 小出恵子  
【利益相反】なし 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻



**目的**  
保健師の**事業実装力**  
(**ポピュレーションの健康課題を解決するエビデンスに基づく事業を導入する力量**)を高める E-learning のシミュレーションプログラムを開発すること(新任期・基礎編)

**方法** 作成過程:  
・事業実装力の全国調査で新任期保健師に特に課題があった**重点項目**の習得を目指す構成に。  
・主体的学習を促進するナラティブベースのシミュレーションとした(**進行役キャラクター3体**を設定)。  
・研究班で協議し作成。



**結果** エビデンスに基づく事業実装の能力開発トレーニングコース 試案を開発した。ベース編「先進優良事例をエビデンスとする事業実装」オンライン3回コース  
コースの目標: 1)事業新設/改善に必要な事業実装の力量を高める。  
2)事業実装の力量を自分の実践に活かすイメージを持つ。  
→事業実装とは、目的を果たす事業をいい感じに現場に導入すること。

テーマ	1回目: まずは基本を、押さえます! こんな時、どうする?	2回目: 先進優良事例の横展開! これの意味、わかる?	3回目: さあ自分の実践に活かそう! どんなイメージ?
ねらい	1.【シミュレーション】基本的な「事業実装」のプロセスを模擬事例を通して学ぶ 2.【レクチャー】エビデンスに基づく公衆衛生/実践の基礎知識	1.【シミュレーション】先進優良事例の選択・エビデンス確認・適用準備を疑似体験を通して学ぶ 2.【レクチャー】先進優良事例とエビデンスをネットで検索する方法	1.【レクチャー】事業実装を学ぶ目的と意義 2.【シミュレーション】事業実装の各プロセスの実践のポイントを復習し、自身の実践イメージを持つ 3.【エール】
内容	事業新設を要するM市のR課長が、事業実装のプロセス毎に参加保健師にミッションを課す	先進優良事例の横展開をしたRが自分の経験を話す。その行動が正しいか否かを参加保健師に問う	事業実装のポイントを聴き、復習することを通して、参加保健師が自分の実践イメージを持たせ問う
方法	自身が採る行動選択	事例の行動の成否判断	復習事項の自己選択

**考察**  
・事業実装が未経験の新任期から、シミュレーションを通して、自由な時間に自主的に、実践適用に向けた基礎を習得できることは、その後の実践の質を高めることに意義がある。  
・今後、RCTによる介入研究により試案の効果検証を行い、普及を図る必要がある。  
■本研究はJSPS科研費JP19H03961の助成を受けた。

**方法** 事業実装力: 実装研究統合枠組み (Damschroder et al, 2009)をもとに開発された**事業実装点検シート** (Implementation Degree Assessment Sheet for Health Program; IDAS, Okamoto et al, 2022)の5領域31項目 doi.org/10.1186/s43058-022-00270-w  
【重点項目】**エビデンス確認** <試用確認> <知識と情報へのアクセス>  
【倫理的配慮】試案の段階にて人を対象とする倫理指針に該当しない。



(5) プラットフォームとなる WEB サイトの構築 (目的 C ): 下記の事業実装と横展開の公衆衛生看護技術のサイト <https://www.phn-waza.com/> を開設した。

2020~2022 年度のコロナ禍の影響を受け、本研究は当初の構想より遅れており、研究成果の投稿論文には投稿中、投稿準備中のものがある。公表され次第 WEB サイトにも反映する予定である。

文献

- Chambers DA, et al. (2020): Implementation Science at a Glance. <https://cancercontrol.cancer.gov/sites/default/files/2020-07/NCI-ISaaG-Workbook.pdf>
- Damschroder JL, Aron CD, Keith ER, et al. (2009) : Fostering implementation of health services research findings into practice: a consolidated framework for advancing implementation science, Implementation Science, 4(50),
- Dolowitz, D, Marsh, D. (2000): Learning from abroad: The role of policy transfer in contemporary policy-making. Governance. 13 (1): 5–24. doi:10.1111/0952-1895.00121.
- Gray M. (2008): Evidence-Based Health Care and Public Health: How to Make Decisions About Health Services and Public Health, third edition. Churchill Livingstone.
- 松浦正浩 (2010) : 政策形成技法としての政策移転ガイドライン 既存研究からの知見 . 社会技術研究論文集, 7,171-181
- Mazzucca S, Tabak GR, Pilar M, et al.(2018): Variation in Research Designs Used to Test the Effectiveness of Dissemination and Implementation Strategies: A Review. Front Public Health.
- 岡本玲子, 関裕子, 他 (2017):保健師の研究成果活用力尺度の開発.日本地域看護学会誌, 20(1),13-21
- Rose R. (2005): Learning from Comparative Public Policy: A practical guide. New York, NY: Routledge.
- 武村真治 (2017) : 研究成果の行政施策への利用を促進するために「研究課程」において必要となる要因 - 厚生労働科学研究費補助金における研究課題の企画・実施からその研究成果の利用までのプロセスの事例分析 - . 保健医療科学,66(1),56-66

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Reiko Okamoto, Masako Kageyama, Keiko Koide, Miho Tanaka, Yoshiko Yamamoto, Mana Fujioka, Ayami Osuna, Kazuko Saeki, Kazue Hirokane, Fusami Nagano, Shinji Takemura	4. 巻 3
2. 論文標題 Implementation Degree Assessment Sheet for Health Program in Japan by Customizing CFIR: Development and Validation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Implementation Science Communications	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s43058-022-00270-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長野扶佐美, 小出恵子, 岡本玲子	4. 巻 11
2. 論文標題 自治体に勤務する保健師の活動経験の実態と「活動の成果を見せる行動」との関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本公衆衛生看護学会誌	6. 最初と最後の頁 108-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15078/jjphn.11.2_108	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡本玲子	4. 巻 11
2. 論文標題 公衆衛生看護技術の開発と実装	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本公衆衛生看護学会誌 第6回国際保健師ネットワーク学術集会 学術集會会長講演	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 岡本玲子, 蔭山正子, 小出恵子, 長野扶佐美, 武村真治, 佐伯和子, 廣金和枝, 山本佳子, 藤岡茉奈, 大砂彩水, 田中美帆
2. 発表標題 実装研究統合枠組みの日本の保健事業カスタマイズ版(CFIR-J)開発と活用可能性の検討
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会 抄録集 p454 2020年10月
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本玲子, 蔭山正子, 小出恵子, 長野扶佐美, 佐伯和子, 廣金和枝, 田中美帆
2. 発表標題 日本の保健事業展開版にカスタマイズした実装研究統合枠組み(CFIR-J)の尺度化
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会 抄録集 p36 2020年12月12日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本佳子, 大砂彩水, 藤岡茉奈, 蔭山正子, 岡本玲子
2. 発表標題 実装研究統合枠組み(CFIR-J)を用いた保健師の事業展開における重要度・実施度の実態
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会 抄録集 p 454 2020年10月
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大砂彩水, 藤岡茉奈, 山本佳子, 蔭山正子, 岡本玲子
2. 発表標題 実装研究統合枠組み(CFIR-J)を用いた保健師の事実実装力と実習経験との関連
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会 抄録集 p 455 2020年10月
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤岡茉奈, 岡本玲子, 大砂彩水, 山本佳子, 蔭山正子
2. 発表標題 保健師による事業・活動における先進優良事例の横展開の実態と関連要因の検討
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会 抄録集 p 455 2020年10月
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田川 文, 藤岡茉奈, 岡本玲子, 大砂彩水, 山本佳子, 田中美帆, 蔭山正子
2. 発表標題 保健師の事業・活動における先進優良事例の横展開の実態～第1報 横展開の経験有無と各種実装項目との関連～
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 p183 2021年1月
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤岡茉奈, 岡本玲子, 大砂彩水, 山本佳子, 田川 文, 田中美帆, 蔭山正子
2. 発表標題 保健師の事業・活動における先進優良事例の横展開の実態～第2報 横展開経験なし群の特徴～
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 p183 2021年1月
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本佳子, 岡本玲子, 蔭山正子, 小出恵子, 長野扶佐美, 佐伯和子, 廣金和枝, 藤岡茉奈, 大砂彩水, 田中美帆
2. 発表標題 保健師の事業実装力のセグメント化に基づく教育方策の検討～実装研究統合枠組み日本版を用いた全国調査結果より～
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 P184 (研究報告部門 最優秀オンライン発表賞) 2021年1月
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東嶋由佳, 大砂彩水, 岡本玲子, 藤岡茉奈, 山本佳子, 田中美帆, 蔭山正子
2. 発表標題 実装研究統合枠組み(CFIR-J)を用いた保健師の事業実装力と実習経験との関連 第1報 経験年数別比較から
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 p184 2021年1月
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大砂彩水, 岡本玲子, 藤岡茉奈, 山本佳子, 東嶋由佳, 田中美帆, 蔭山正子
2. 発表標題 実装研究統合枠組み(CFIR-J)を用いた保健師の事業実装力と実習経験との関連 第2報 管理期の統括保健師の特徴に焦点を当てて
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 p185 2021年1月
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本玲子, 蔭山正子, 小出恵子, 長野扶佐美, 佐伯和子, 廣金和枝, 武村真司, 田中美帆
2. 発表標題 普及と実装科学としての政策移転と先進優良事例の横展開を考える
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会 自由集会 2020年10月19日(月)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本玲子, 蔭山正子, 小出恵子, 長野扶佐美, 佐伯和子, 廣金和枝, 田中美帆
2. 発表標題 実装研究統合枠組み日本カスタマイズ版(CFIR-J)の活用を考える～保健政策・事業の効果的な推進のために～
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会 抄録集 p54 ワークショップ 2020年12月13日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本玲子, 藤岡茉奈, 山本佳子, 大砂彩水, 蔭山正子, 小出恵子, 長野扶佐美, 佐伯和子, 廣金和枝, 田川 文, 東嶋由佳, 渡邊莉世, 田中美帆
2. 発表標題 保健師の事業実装に先進優良事例を横展開する！全国調査結果からの提案
3. 学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 p126 ワークショップ 2021年1月10日(日)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 岡本 玲子, 小出 恵子, 長野 扶佐美
2. 発表標題 保健師活動における政策移転研究の可能性 - 経験事例に基づく検討 -
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会 抄録集 日本公衆衛生雑誌66(10) p543 2019年10月25日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本 玲子, 蔭山 正子, 小出 恵子, 長野 扶佐美, 佐伯 和子, 廣金 和枝, 山本 佳子, 藤岡 茉奈, 大砂 彩水, 規家 美咲, 多田 碧樹, 李 猛
2. 発表標題 保健師に求められる政策移転のワザ～「つくる・つたえる・つかう」で根拠を持った実践を！～
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 P96 ワークショップ 2020年1月11日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Reiko Okamoto
2. 発表標題 Development and Implementation of Public Health Nursing Art
3. 学会等名 The 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, Presidential Speech, Online, p231-234 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Riko Tadatsu, Reiko Okamoto
2. 発表標題 Effectiveness of incentives on health-promoting behavior changes : A literature review
3. 学会等名 The 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, p265 Oral presentation (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大砂彩水, 藤岡茉奈, 藤本梨恵子, 山本佳子, 蔭山正子, 岡本玲子
2. 発表標題 地域・職域連携推進事業の過去3年間10事例における成果要因の質的分析
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会 抄録集 日本公衆衛生雑誌66(10) p541 2019年10月24日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤岡 茉奈, 岡本 玲子
2. 発表標題 自殺対策における保健師の実践活動に関する文献レビュー
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 p125 2020年1月11日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田川文, 小出恵子, 田中美帆, 岡本玲子
2. 発表標題 階層型クラスター分析を用いた活動事例類型化の試み - 先駆的母子保健活動事例より -
3. 学会等名 第24回日本地域看護学会学術集会 講演集 p24 2021年8月
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本玲子
2. 発表標題 公衆衛生看護技術の開発と実装
3. 学会等名 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 p43-45 学術集会長講演 2022年1月8日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡本玲子, 宮本圭子, 小出恵子
2. 発表標題 保健事業実装点検シートを用いた全国調査に基づく新任期保健師プログラムの検討
3. 学会等名 第25回日本地域看護学会 プログラム集 P34 2022年8月27日～9月16日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡本玲子, 宮本圭子, 小出恵子
2. 発表標題 公衆衛生看護における事業実装力向上プログラムの開発 - オンライン基礎編の検討 -
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会 抄録集 P411 2022年10月7日～10月9日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村山加那子, 荒木望, 下田和美怜, 田中美帆, 小出恵子, 宮本圭子, 岡本玲子
2. 発表標題 新任保健師の事業実装力と保健師コンピテンシーとの関連
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会 抄録集 P411 2022年10月7日～10月9日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 忠津吏湖, 津禰鹿すみれ, 小出恵子, 田中美帆, 宮本圭子, 岡本玲子
2. 発表標題 保健師の事業実装力と管轄人口規模との関連 - 経験年数別比較 -
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会 抄録集 P412 2022年10月7日～10月9日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 忠津吏湖, 岡本玲子, 小出恵子, 田中美帆
2. 発表標題 都道府県庁保健師による健康政策決定への関与に おける公衆衛生看護技術: 質的研究
3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 P141 2022年12月17日~18日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下田和美怜, 津禰鹿すみれ, 村山加那子, 忠津吏湖, 荒木望, 小出恵子, 宮本圭子, 岡本玲子
2. 発表標題 保健師の事業実装力向上策の検討~事業実装力と事業化・施策化能力の項目比較より~
3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集 P142 2022年12月17日~18日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡本玲子
2. 発表標題 普及と実装科学としての政策移転と先進優良事例の横展開を考える
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会 自由集会 2020年10月19日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本玲子, 廣金和枝, 田中美帆, 長野扶佐美, 小出恵子, 蔭山正子, 佐伯和子, 武村真治
2. 発表標題 地域の看護活動・研究に普及と実装科学(D&I)のモデルを活用しよう!
3. 学会等名 第24回日本地域看護学会学術集会 講演集 p18 ワークショップ 2021年9月18日
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岡本玲子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 464
3. 書名 新版 保健師業務要覧 第4版 2023年版 分担:第5章保健師と研究 2.実践知の蓄積とエビデンスの活用 255-259	

1. 著者名 岡本玲子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 公衆衛生看護学テキスト 第3巻 公衆衛生看護活動 第2版 第4章 システムを構築・管理する公衆衛生看護活動 1.切れ目のない母子保健システム(P161- 173)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小出 恵子  (KOIDE Keiko)  (40550215)	大阪大学・医学系研究科・准教授   (14401)	
研究分担者	蔭山 正子  (KAGEYAMA Masako)  (80646464)	大阪大学・高等共創研究院・教授   (14401)	
研究分担者	佐伯 和子  (SAEKI Kazuko)  (20264541)	富山県立大学・看護学部・教授   (23201)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武村 真治  (TAKEMURA Shinji)  (50280756)	国立保健医療科学院・その他部局等・上席主任研究官   (82602)	
研究分担者	長野 扶佐美  (NAGANO Fusami)  (70805689)	福山平成大学・看護学部・准教授   (35411)	
研究分担者	廣金 和枝  (HIROKANE Kazue)  (70637214)	兵庫医科大学・看護学部・教授   (34519)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田中 美帆  (TANAKA Miho)		
研究協力者	宮本 圭子  (MIYAMOTO Keiko)		
研究協力者	下田和 美怜  (SHIMODAWA Mirei)		
研究協力者	山本 佳子  (YAMAMOTO Yoshiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤岡 茉奈  (FUJIOKA Mana)		
研究協力者	大砂 彩水  (OHSUNA Ayami)		
研究協力者	忠津 更湖  (TADATSU Riko)		
研究協力者	村山 加那子  (MURAYAMA Kanako)		
研究協力者	荒木 望  (ARAKI Nozomi)		
研究協力者	津禰鹿 すみれ  (TSUNEKA Sumire)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関